## きのこによる食中毒の発生状況

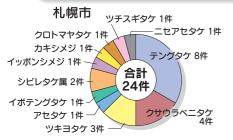
(昭和45年~令和3年までの過去52年間の累計)

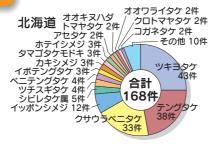
## 発生 件数

毎年、北海道(札幌市を含む)で数件の食中毒が発生しており、過去52年間で患者数が696名、うち死者数は5名(札幌市1名)である。

	発生件数	患者数	死者数	死者が発生した事例での 原因きのこ	
北海道	192	696	5	タマゴタケモドキ····3名 クロトマヤタケ·····1名	
札幌元 (再掲)	<sup>5</sup> 28	90	1	(札幌市) 種類不明·····1名	

#### 原因となったきのこの種類





\*種類(属を含む)が判明したもの(推定を含む)は、札幌市で28件中24件、北海道で192件中168件(同一事例で複数の種類のきのこが関与しているものあり)。

### 原因となった施設

## 札幌市 路上販売 1件 事業所 1件 合計 28件 家庭 26件



#### 札幌市での「きのこによる食中毒事例」

#### ●クサウラベニタケによる食中毒

概要 平成元年10月、市内の路上販売店から購入したきのこを6グループ13名が喫食。間もなく頭痛、おう吐、下痢などの症状を訴え、治療などを受けた。

要因 路上販売者は、食用のシメジの一種と信じて採取し、 その旨を表示して販売していた。また、購入者も食用 のシメジと思って喫食した。

教訓:きのこを購入する時は、信頼できる販売店から

#### ●カキシメジによる食中毒

概要 平成11年10月、市内で採取したきのこをタラ、白菜などと一緒に きのこ鍋にして家族4名が喫食。1~3時間後に4名ともおう吐、 下痢などの症状が現れ、医師の治療を受けた。

**要因** 本人は知らないきのこだったが、通りがかりの人から「シメジで食べられる」と間違って教えられ、これを信用して採取した。

教訓:知らないきのこは採らない・食べない

#### ●イボテングタケによる食中毒

概要 平成23年9月、市内の公園で採取したきのこを自宅でバター炒めにして1名が喫食。約1時間後におう吐、幻覚などの症状が現れ、医師の治療を受けた。

要因、採取した本人が、食用のモミタケと思い込んでいたことによる。

教訓:食用きのこの知識は確実に身につける

#### ●テングタケによる食中毒

概要 平成15年8月、近所の森で採取したきのこを自宅で味噌汁にして家族 2名が喫食。このうち1名が約2時間後にふわっとした感じと全身のし びれを感じ、医師の治療を受けた。残っていたものから、テングダケ と判明。

**要因** 本人は「香りの良いきのこは食べられる」という迷信を信じ、初めて みたきのこであるにもかかわらず大丈夫だと判断していた。

教訓:誤った言い伝えは信じない

#### ●ツキヨタケによる食中毒

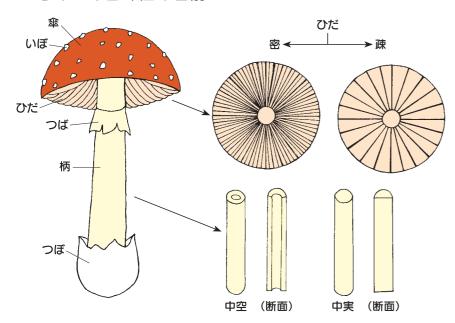
概要 平成14年9月、市内の山林で採取したきのこの提供を 受けた11名が喫食。このうち2家族6名が1~2時間後 に、おう気、おう吐、腹痛などの症状を訴えた。

要因 採取者は、図鑑で調べ、一部のきのこにツキヨタケ特 有の黒いしみがあったが、鮮度が落ちたものと思って ムキタケと判断し、その部分を除いて調理した。

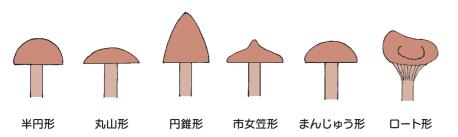
教訓: 勝手な判断は禁物・知らないきのごは人にあげない

# きのこの基礎知識

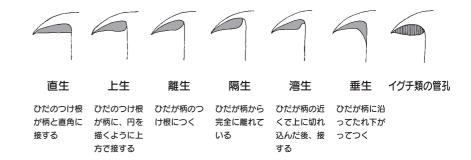
## 1.きのこの各部位の名前



## 2.傘の形のいろいろ



## 3.ひだのつきかた



## 4.きのこの生え方



6